

# 令和4年度 JOC ナショナルコーチアカデミー 実施要項

## ◇趣 旨

ナショナルコーチアカデミー制度は、スポーツ庁が策定した「スポーツ基本計画」において明示され、中長期的国際競技力向上計画の一環として位置づけられている。本アカデミーは、オリンピックで活躍できるアスリートを育成・指導するワールドクラスのコーチ・スタッフの養成を目的とする。

JOC が委嘱し、各競技のナショナルチームの指導に携わる「ナショナルヘッドコーチ」及び「ナショナルチームコーチ」（令和4年4月より「専任コーチディレクター」から改称）は、その認定を受けるにあたり本アカデミーを受講し、修了していることを条件とする。

## ◇コンセプト

(1) **Elite**： オリンピック等の国際大会で日本代表として戦う TEAM JAPAN の一員としての品格・資質を兼ね備えた真のワールドクラスコーチを養成する。

(2) **Professional**： 職業観・倫理観・社会的責任において、専門家としての誇りを持つワールドクラスコーチを養成する。

(3) **Global**： 日本としての戦い方を追求するとともに、「国際基準」を踏まえた戦略、強化指導を行うことができ国際舞台で勝利できるワールドクラスコーチを養成する。

(4) **Interactive**： 知識や情報の一方通行ではなく、受講者と講師、受講者間の双方向による情報交換を主体とする。また指導現場においてアスリート及びコーチ間との双方向を意識できるワールドクラスコーチを養成する。

(5) **TEAM JAPAN**： 競技及びスポーツの枠を超えた交流・連携を通し、日本スポーツ界及び日本社会の発展に貢献する。

## 1. 受講対象者

本会に加盟するオリンピック実施競技団体が推薦し、本会が認める下記の者とする。なお推薦される者は原則公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）公認コーチ3又はコーチ4資格保有者であること。

① JOC の委嘱する「ナショナルヘッドコーチ」及び「ナショナルチームコーチ」

※令和4年4月より「専任コーチディレクター」から改称

② 令和4（2022）年度強化スタッフ（JOC に推薦した者）

③ その他受講希望者

※①及び②の対象者のうち、JSP0 以外、海外等でコーチ資格を取得した者は、そのカリキュ

ラム詳細が分かる資料及び認定証等の写しを提出すること。

※令和3年度より本受講資格として JSP0 公認コーチ 3 又は公認コーチ 4 資格取得が必須となり、同資格がない場合は原則受講できません(令和4年度 JSP0 共通科目受講予定者は可)。

※JSP0 公認コーチ 3 専門科目を現在実施していない競技団体は個別に対応する。

※各競技団体はスポーツ基本計画に基づき、女性指導者の育成を推進するために、女性指導者も推薦すること。

## 2. 実施期間 (予定)

第1週：6月20日～23日

第2週：6月27日～30日、

第3週：7月4日～7日

第4週：7月11日～14日、

第5週：10月10日～13日

第6週：10月17日～20日、

第7週：10月24日～27日

第8週：10月31日～11月3日

※外国籍コーチは、7月4日(月)～6日(水)の2泊3日で実施予定

※開始・終了時間は原則下記を予定

- ・開始時間…月曜：13時15分、火～木曜：9時
- ・終了時間…月～水曜：17時30分、木曜：16時

## 3. 受講定員

30名程度(最大40名程度)

※受講希望者が受講定員を超えた場合は、受講対象者①、②、③の優先順位で協議の上、決定する(場合によっては面談を実施)。

## 4. 受講料

30万円/人 (交通費は含まない)

※外国籍コーチは、3万円/人

※受講料は、受講者決定後、各競技団体宛てに請求する。各競技団体は、受講決定者分を一括して本アカデミー開講日までに本会の指定する口座に振込むものとする。

## 5. 提出書類

「JOC ナショナルコーチアカデミー受講希望者推薦書、調書及び出欠予定調査票」

※各競技団体は、「受講希望者推薦書」並びに受講希望者全員分の「受講希望者調書及び出欠予定調査票」を一括して、味の素ナショナルトレーニングセンター・ナショナルコーチアカデミー事業担当に提出するものとする。

※推薦書および調書等の書式を希望する場合は、下記8まで問い合わせること。

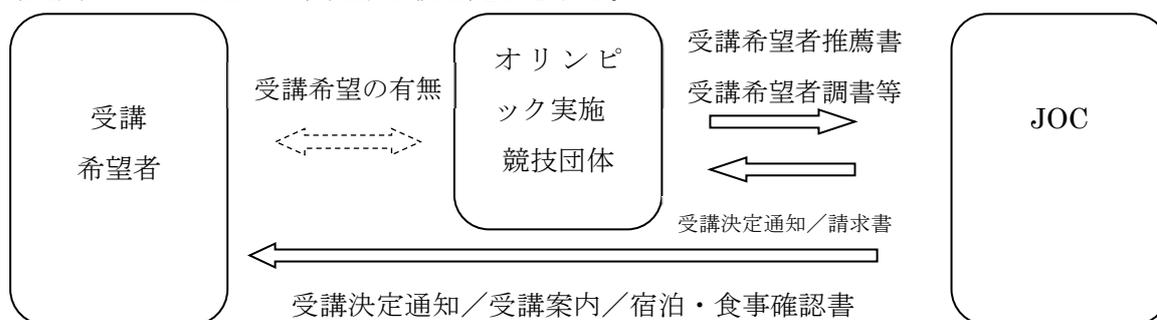
## 6. 申込締切

令和4（2022）年4月4日（月）

## 7. 受講手続

受講者の決定後、各競技団体に決定通知及び受講料の請求書を送付する。

受講料の納付をもって、受講手続を完了とする。



### 【会場】

- ・味の素ナショナルトレーニングセンター（味トレ）
- ・その他（各種大学や地域施設等、競技別強化拠点施設）

※一部プログラムはリモート参加可とする（予定）

### 【宿泊】

原則、味の素ナショナルトレーニングセンター（アスリートヴィレッジ）・国立スポーツ科学センター（JISS）宿泊施設、近隣ホテル等を本会より予約し、利用する。

## 8. 問い合わせ先

公益財団法人日本オリンピック委員会

JOC ナショナルコーチアカデミー事業 《担当：伊藤リナ》

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1 味の素ナショナルトレーニングセンター

TEL：03-5963-0353 FAX：03-5963-0356 E-mail：r-ito@joc.or.jp

## 9. その他

- (1) 日本スポーツ協会公認コーチ以外となる各競技団体公認最上位資格保有者もしくは海外指導者資格保有者で取得単位互換希望者は上記まで問い合わせること。
- (2) 今年度実施日程で修了できない場合は、次年度以降の本コース等を受講する。ただし、受講開始から原則3年間を修了のための期限とする。
- (3) 提出された書類は、いかなる事情があっても返却しない。
- (4) 受講希望者調書に記載された個人情報、開催案内等の送付、会議資料作成の他、本会内部資料として使用し、他に転用しない。

JOC ナショナルコーチアカデミーカリキュラム (予定)

<b>集合研修</b>	
高度競技コーチング	
オリンピック論	「オリンピック」「オリンピックムーブメント」について理解を深めるとともに、オリンピックの意義について講義・演習を行う。
トップスポーツ論	世界の潮流を踏まえたトピックや具体的事例をもとに、トップスポーツが持つ価値や意義を意識するとともに、ワールドクラスコーチとしての社会的責任や役割を考察する。
コーチング論	ナショナルチームの指導に携わるコーチ及びスタッフが持つべき哲学、倫理観、役割、責任、リーダーシップ等をはじめ、実際の指導現場での事例について講義・演習を行う。
運動観察／ コーチング実践	他競技の合宿やトレーニング、指導者養成等を様々な角度から観察することにより、自競技の競技特性を再確認し、自競技に活かせるものを検討する。また、コーチングの実践を行う。
高度競技マネジメント	
マネジメント論	概論及び競技力向上に必要な様々なマネジメント能力を論じる。競技団体における事例を紹介するとともに、コーチに求められるマネジメントスキルについて、講義・演習を行う。
スポーツ情報戦略	日本における情報戦略活動の事例を通し、自競技の情報戦略について検討する。また、コーチングと情報戦略の関連を論じるとともに、受講者間でディスカッションを行う。
医・科学サポート論	医・科学の各分野におけるトップアスリートに対するサポート事例について、講義・演習を行う。
スポーツと法	紛争事例（選手選考、暴力（体罰）事件、セクシュアル・ハラスメント、ドーピング紛争等）を基に、指導者の法的及び社会的責任について講義・演習を行う。
スポーツ政策	スポーツ庁の取り組み、特に国際競技力向上施策について講義・演習を行う。
スポーツマーケティング	企業もしくはスポーツ団体におけるスポーツマーケティングに関する基本構造や取り組みについて、具体的・実践的な講義・演習を行う。
インテグリティ教育	スポーツの安全性・公平性・公正性などスポーツ及びアスリート・コーチが自らの価値を守るために、理論や昨今の事例について講義・演習を行う。
キャリアコーチング	アスリートに対してコーチがとるべきキャリアコーチングの考え方や具体的な支援方法について講義・演習を行う。
メディア論	アスリートやトップコーチ等に対するメディアの視点をもとに、メディアとのコミュニケーションについて講義・演習を行う。
ケースメソッド研修	ケースをもとに参加者同士が議論することで学び合う授業方法を通し、既存の知識の獲得ではなく、自分で考え、決め、実行していく能力や態度の獲得を行う。
ビジネスシミュレーション研修	ビジネスシミュレーションを通じて、コミュニケーションスキル、交渉力、戦略思考、経営マネジメント等の考え方やスキルについて実習する。
コミュニケーション	
ロジカルコミュニケーション	「考える力を持つアスリートの育成」を目的に、言語技術を通して「論理的思考」「分析的思考」「創造的思考」「批判的思考」を身につけ、競技者やチーム・組織へのアプローチの核となるコミュニケーションスキルについて実習する。
ディベート実習	論理的思考、論理的コミュニケーション、プレゼンテーションスキル、質問力、論理構築力の考え方やスキルについて実習する。
アッセンブリ	本アカデミーで習得したこと、課題、現場研修の報告等、受講者が設定したテーマについて、ディスカッションを行う。
プレゼンテーション実習	伝えたいことをアスリートやチーム、組織のステークホルダー等に確実に理解させられるようにプレゼンテーション力を高めるため、受講者自身が行う。
野外研修(ASE)	野外実習を通して、コミュニケーションやリーダーシップ等の重要性を再認識するとともに、受講者間の連帯意識の醸成を図り、今後のチーム指導に役立つスキルを習得する。
アセスメント	本アカデミーのプログラムを振り返り、プログラム内容及び自身に対する評価・分析を行う。
現場研修	所属チーム等においてOJT(On the Job Training)を行い、本アカデミーで習得した知識やスキルを実践し受講者自身で効果測定を行い、報告する。